



はやしだ とよひこ
林下 豊彦〔新清風会〕



鯖江市の防災危機管理について

問 災害時の水やトイレについての対策や準備はしているか。

答 水は必要量を確保している。既設のトイレは機能しなくなるということを想定して、洋式トイレに処理袋をセットし使用する災害用排便処理袋、また、便座と処理袋がセットになった簡易トイレなどの備蓄を行っている。さらに、県内事業者と自走式水洗トイレの提供に関する協定も締結している。

問 防災時協力井戸や道路の融雪装置を手動で汲み上げる等の防災時に地下水を活用する為の調査や研究はしているのか。

答 地下水の活用は災害時の水の確保につながる有効な手段と考え、先進的な事例を参考にしながら研究を進める。

問 能登半島地震から避難訓練の大切さを再認識したが、降雪時期や寒冷時の避難訓練は実施しないのか。

答 冬季の災害は、雪や寒さが足かせとなり、人命救助、避難行動、避難生活など、様々な場面で夏場の災害以上に人手や装備、時間を要することが想定される。冬場の避難訓練の必要性については十分認識している。訓練の実施に向けて検討する。

意見 冬季の災害を想定して、避難所での行動や備蓄品の精査確認、水やトイレに対する先進的な取り組みの事例も参考にして、今考えられる準備を怠りなく行うよう要望する。

【その他の質問】 ・ゼロカーボンシティの実現について



さかい ゆきこ
酒井 友季子〔ふくいの党・鯖江〕



地震による災害について

問 能登半島地震から得られた市の課題とその課題解決方法は。

答 今ある備蓄の多くは市の防災拠点施設にあるが、今後は有事の際にすぐに利用できるよう各指定避難所に移していく。避難所管理運営マニュアルの見直しを行い、防災訓練は今後も継続して行う。

問 今後いつ起こるかかわからない地震の備えとして、地震の2次災害で起こる火災による焼失を防ぐため「感震ブレーカー」の補助を検討して欲しい。

答 普及啓発を図るとともに、補助についても早急に検討していきたい。

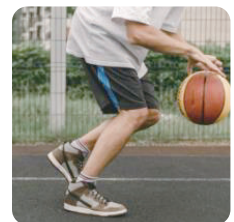
地区公民館の利用促進について

問 地区公民館の課題と令和6年度の事業内容は。

答 「利用者の固定化」「若者の利用が少ない」などの課題がある。「ぐるっと公民館事業」「子どものびのび広場整備事業」など、これまで利用が少なかった世代の利用も促していきたい。

問 若者の利用促進案としてバスケットボールやバレーボールなどの備品を地区公民館に設置してはどうか。

答 何があればいいか各公民館に意見を求めながら検討していきたい。



バスケットボールなど
備品で若者利用促進を



かとう まさる
加藤 優〔公明党〕



地域を守る建設土木工事の担い手確保のために

問 公共工事の平準化のために債務負担行為の積極的な活用は。

答 市が発注する土木工事は、現状、河川工事等の非出水期に工事期間が制限される工事、例えば護岸工事等や、耕作期に施工時期が大きく制限を受けるような工事について債務負担行為の設定を検討している。今後、債務負担行為の設定も考慮し、施工時期の平準化に積極的に努めていきたい。

問 公共工事の速やかな繰越手続きは。

答 これまでも、発注者、受注者が協議の上、年度末を待つことなく適切な時期に繰越手続きを行っている。働き方改革、2024年問題もあり適正な工期の確保に対応する。

問 食品ロス削減の住民運動の推進について①フードシェアリング②フードドライブ③コミュニティフリッジ④規格外農産物のそれぞれの対応は。

答 市の状況に合った対応をそれぞれに周知・啓蒙も含めて努めていく。「もったいない」「お裾分け」の好循環の拡大を目指していきたい。



食品ロス削減を目指して